

# 平成30年度 学校自己評価システムシート ( 県立鳩山高等学校 )

目指す学校像	普通科、情報管理科併置の利点を活かし、生徒一人一人を大切に教育を行い、地域とともに歩む元気な学校
--------	--

重点目標	1 キャリア教育の充実と達成感を高める学力の向上 2 基本的な生活習慣とマナーの育成 3 活力ある学校行事と部活動を通じた自己管理能力の育成 4 地域の様々な機関との積極的な双方向での連携強化
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校関係者	2名
出席者 生徒	3名
事務局(教職員)	13名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価 ( 2月1日現在 )			実施日 平成31年2月12日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	観点	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	昨年度も進路決定率は100%であり、生徒は落ち着いた授業に取り組んでおり、少人数授業の効果が表れている。さらに学習サポーターの効果的に活用し、わかる授業を展開し、生徒が机に向かう習慣づけをすることによる学力の向上が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人一人の達成感を高めることにより基礎学力を定着させる。</li> <li>○生徒の自覚を高める進路指導を推進し、目標と職業観を持った生徒を育成する。</li> </ul>	①授業における学び直しの取組や学習サポーターの効果的な活用を図る。 ②授業アンケートを活かした授業改善に取り組む、教科を超えた教員相互の授業観察を実施し、実践を共有する。 ③体験学習や各種検定への取組、課題や小テスト等により生徒の内発的な学習を促す。	①学び直しの実施状況と達成度確認テストの得点率が上昇したか。 ②教科での授業アンケートの分析や教科を超えた授業観察を授業に反映したか。 ③生徒の授業以外の学習時間が伸び、課題の提出率が向上したか。	各教科で学び直しを含め、基礎学力の定着を意識した授業を展開した。 ①新たに国語でも達成度確認テストを導入。数学の得点率は平均点が5点上昇 ②授業アンケートの結果を教科内で協議し、授業改善に活用 ③授業以外の学習時間「平日、全く学習をしない」 65.0% (H29 4.6%) と変化なし	A	学びの基礎診断の効果的な活用方法について検討をするとともに生徒の授業に対する姿勢・意識の向上を目指し、基礎学力の定着にさらに取組む必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は目の前の問題を解くだけでなく勉強のやり方を生徒に教えるところである。今後の生活に必要なことを学ぶという点で努力している姿勢が見られる。</li> <li>・生徒一人一人にとっての良い進路を考えていただいている。鳩山高校としてのプライドを持って進めていただきたい。応援している。</li> <li>・卒業生の追跡調査を実施し、統計による把握が必要ではないか。それを活用することによりさらに進路指導の改善が期待できる。</li> </ul>
2	生徒会が立案した地域でのボランティア活動となる「ハトミライ☆プロジェクト」は地域の方からも評価が高いが、行事やボランティア活動に意欲的に参加する生徒が固定化している傾向がある。バスの乗車マナー等、さらに生徒の意識の向上が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の特性を理解し、良いところを見つけ、心の成長を促す。</li> <li>○県教委の事業を活用したボランティア活動等により主体性を育む。</li> </ul>	①日々の教育活動を通じて、挨拶、マナー身だしなみ等の指導を毅然とした姿勢で年間を通して継続的に行う。 ②外部機関やスクールカウンセラー・専門員と連携し、「励ます・相談にのる・ほめる」指導を展開する。	①組織的・継続的に毅然とした態度で指導できたか。 ②外部機関との連携や専門家の活用が生徒への指導に活用できたか。	生徒一人一人を大切に、専門家による助言を生かし、個に応じた指導を進めている。 ①学年を中心に生徒に関する情報を共有し、適切な指導を実施 ②スクールカウンセラー・臨床心理士の助言を活用した組織的な指導を展開	A	さらに多様な生徒の実態に応じた組織的な指導方法を検討していく必要がある。 スマートフォンやSNSの使用に対する指導について新たな取組みを講ずる。	
3	生徒会が定例会を重ね、意欲的に取り組んでいる。部活動の加入率・継続率向上に向け、さらに原因を探り、数値目標を明確に掲げる等、検討が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会中心に生徒の主体的な取組による学校行事を実施し、生徒の意識を高める。</li> <li>○部活動に参加する生徒が増加するための方策を研究する。</li> </ul>	①文化祭等の学校行事を生徒主体に実施し、学校行事に対する生徒の参加意欲を高める。 ①部活動間の協働体制による取組を工夫し、保護者の協力を得て、活性化に対する方策をまとめる。 ②大会や発表会の様子を校内外に積極的に発信し、部活動を活性化させる。	①生徒アンケートにより主体的に関わった生徒が増加したか。 ①加入率向上に向けた方策を立案できたか。 ②Webページの更新や学校新聞による広報を積極的に進めることができたか。	担任を中心に部活動・ボランティア活動等への参加を個々の生徒に促し、意識向上を目指した。 ①文化祭後のアンケートで「積極的に取組めた」と回答した生徒81% (H29 84%) とやや減少	A	文化祭の参加団体の企画内容の工夫等、クラスの生徒一人一人が参加できるようなしくみを作る必要がある。	
4	鳩山中学校PTAの訪問により、本校の理解促進に成果が見られた。さらに誘致を進める必要がある。「実学を重視した学校づくり」を推進し、鳩山町になくてはならない学校となるようさらに双方向の連携を深める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PTAの協力を得て、地域との連携を生かし、募集定員を確保する。</li> <li>○地域の諸機関との交流を深め、双方向に連携し、本校の教育活動の理解を推進する。</li> </ul>	①中学校PTAを本校での説明会に誘致する。 ②「実学を重視した学校づくり」について本校の新たなイメージ作りに向け、積極的に広報する。	①中学生の保護者の来校者数が増加したか。 ②学校案内を刷新し、活用することにより生徒募集につながっているか。	志願者の増加に向けて刷新した学校案内を中学校・塾に配布し、積極的に広報した。 ①鳩山中学校のPTAが来校。来校者数1校(18名)と変化なし ②学校案内を刷新し、全職員で中学校・塾訪問を実施	A	文化祭で本校のボランティア活動等の取組を展示・発表し、さらに本校の取組みを広報する。	
			①「WIN-WINプロジェクト」を主軸に鳩山町や地域の事業所等との連携を深める。	①互いの教育資源を活用し、参加者が自身の成長を実感でき、満足することができたか。	①鳩山町と連携協定を結び、新たに町が主催するワークショップに参加。参加生徒は成長を実感	A	生徒と地域双方にとってWINとなるような視点から連携内容の精選をする。また、それぞれの活動の意義や重要性を伝えるとともに振り返り活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々努力している様子がわかった。地域にとって大変ありがたいと思う。</li> <li>・ボランティア等の活動が将来、どういった所でどのように役立つかを合わせて説明すると生徒募集につながるのではないか。</li> <li>・情報管理科の授業内容は専門的で社会に出てすぐに役立つ内容である。普通科にはない魅力を効果的にPRすると生徒募集につながる。</li> </ul>